

序章 北広島町サイン整備実施計画策定にあたって

1. 計画策定の背景

1-1. 計画策定の背景について — 町内外の諸計画との関係 —

■ 過年度策定計画までの背景

北広島町は、「北広島町長期総合計画(平成19年3月)」において「新田園文化のまち」を町の将来像として掲げ、地域の環境や資源を活かしたまちづくりを進め、定住および交流の拡大に取り組んでいる。こうした中で、「北広島町観光振興まちづくり計画(平成20年3月)」での観光サイン整備の言及、商工会青年部による屋外広告物現況調査(平成22年3月)、広島大学との連携による景観ワークショップ(平成22年9月)などにより、北広島町の屋外サイン(看板・広告等)や地域景観のあり方が検討されてきた。

北広島町の地域景観についてみると、八幡高原を始めとして、山々、田園や農家が形づくる集落の佇まいなど、地域固有の資源があり、これらを守り、生かしながら、北広島町ならではの優れた地域景観をつくりあげていくことが重要であるといえる。一方、高速道路出入口や主な交通結節点では宣伝看板や啓発看板が地域景観を劣化させている場合もあり、その改善が課題となっている。

そのような動きの中で、平成24年度には「サイン整備を契機とした景観形成」に主眼を置いた北広島町サイン整備基本計画が策定された。町内の主要な誘導経路を設定したうえで、主要な交通結節点におけるサイン整備をきっかけとして、その場所の修景を進めることが検討されている。

H24 北広島町サイン計画 —サイン整備を契機とした場所の修景—

区分	概要
STEP. 1 サイン整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「北広島町のサインシステム」における位置づけ、表示の基本情報の確認 ・関係者間の意見調整 ・サインデザインの検討 ・公共サイン、民間サインの集約化
STEP. 2 場所の修景	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽看板、工作物の撤去 ・除草、緑化 ・電柱移設 ・工作物などの美化化 など

A-1. 八幡高原西



A-2. 雲北支所西



B-1. 八幡高原東エントランス

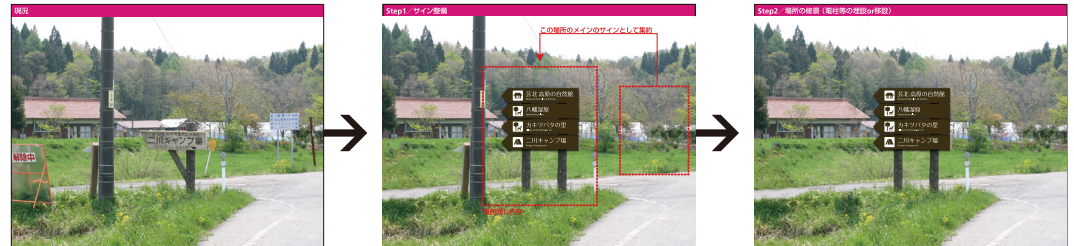


図)H24 北広島町サイン計画より一部抜粋

■広島県施策および中山間地域を対象とした町内外の動き

平成 23 年に広島県が、おおむね 10 年後を展望して広島県の目指す将来像を示した「ひろしま未来チャレンジビジョン」を実現するため、「社会資本未来プラン」(平成 23~32 年度)により、今後の社会資本マネジメントの基本方針を定めている。その中で北広島町と直接的に係るものとして、「観光サイン計画基本調査」、「観光スポットへのアクセス状況調査」、「やまなみサイクリングロード (仮称) 構想調査」などがリンクすると考えられる。

さらに広島県は、多様な主体が連携して中山間地域の振興に取り組み、豊かで持続可能な県民共通の財産としてその価値を将来に引き継いでいくためとして、平成 25 年 10 月、「広島県中山間地域振興条例」を制定した。

北広島町においては、平成 26 年度から一町民の景観に対する意識の醸成を図るとともに、次世代に伝えていきたい「ふるさと北広島町」の優れた景観を「北広島町ふるさと百景」として選定し、公開することにより、町民が愛着と誇りを感じる、美しく存在感がある北広島町のらしさづくりと、より良い景観形成の推進を目的とする「北広島町ふるさと百景」の募集を始めており、その利活用についても今後検討していく予定である。

このような町内外の動きからも、中山間地域ならではの人々の生活に根ざした文化(自然信仰、五穀豊穡の祭り、土着的設え)やさつやま景観・田園風景が持つ魅力に、あらためて目が向けられていることがわかる。

県 社会資本未来プラン

おおむね 10 年後を展望して広島県の目指す将来像を示した「ひろしま未来チャレンジビジョン」を実現するため、「社会資本未来プラン」(平成 23~32 年度)により、今後の社会資本マネジメントの基本方針を定めています。また、これを受けた各実施計画に基づいて、各事業が進められています。

ひろしま未来チャレンジビジョン
目指す未来の姿の実現

社会資本未来プラン
戦略的投資とマネジメントの高度化

『社会資本未来プラン』の主要な推進!

西部建設事務所安全太田支所 整備計画実施方針

事業別整備計画に基づく戦略的な社会インフラの整備を推進!

事業	内容	実施年度
一般道路	1 一般道	2023~2024
	2 一般道	2023~2024
	3 一般道	2023~2024
	4 一般道	2023~2024
	5 一般道	2023~2024
	6 一般道	2023~2024
	7 一般道	2023~2024
	8 一般道	2023~2024
	9 一般道	2023~2024
	10 一般道	2023~2024
交通安全	11 交通安全	2023~2024
	12 交通安全	2023~2024
	13 交通安全	2023~2024
	14 交通安全	2023~2024
	15 交通安全	2023~2024
	16 交通安全	2023~2024
	17 交通安全	2023~2024
	18 交通安全	2023~2024
	19 交通安全	2023~2024
	20 交通安全	2023~2024
観光	21 観光	2023~2024
	22 観光	2023~2024
	23 観光	2023~2024
	24 観光	2023~2024
	25 観光	2023~2024
	26 観光	2023~2024
	27 観光	2023~2024
	28 観光	2023~2024
	29 観光	2023~2024
	30 観光	2023~2024

次期各事業別整備計画への円滑な橋渡し (方針)

・プロダクト・アウト (県行政主導) からマーケット・イン (地域ニーズ重視) へ
 ・協議による地域づくりへ (地域による事業評価・改善・見直しによる P D C A サイクル)
 ・連携による地域づくりへ (他分野事業との連携促進による全体最適化・シナジー効果)

道路	河川	砂防
●シビル・ミニマム ^{※1} の確保 ●観光回廊ルートの重点整備 ●通学・通勤車通行改善対策の強化	●洪水想定エリアの完全解消 ●中小河川の安全度向上 ●灌漑・漁業資源への配慮	●地元産業型行政提案型へ (補助採択要件に高たない規模の箇所の集約事業化検討・提案)
(共通) ●緊急輸送道路の機能を確保する整備 (河川・河川・砂防事業の統合全体最適化+治山事業との連携) ●2町の地域防災計画での避難場所・避難路の安全を確保する整備 (各事業間のシナジー効果 ^{※2} の発揮)		

※1 シビル・ミニマム「地方自治体が発災時に必要としない可成り長年の最低限必要な生活基盤」
 ※2 シナジー効果 (相乗効果) 2つの以上の事業が互いに作用し合い、1つの効果や価値を創出すること。

各事業整備計画	H23	H24	H25	H26	H27	H28~
道路	→	→	→	→	→	→
河川	→	→	→	→	→	→
砂防	→	→	→	→	→	→
総合維持修繕費	→	→	→	→	→	→
地域連携推進体	→	→	→	→	→	→

現場主義実践プロジェクト調査 (素案)

調査項目	調査内容 (調査①)	調査内容 (調査②)
観光サイン計画基本調査	・管内サイン実態調査 ・北広島町観光サイン基本計画との調整 ・陰陽神楽ロード構想との調整 等	緊急輸送道路の機能分析調査 ・大規模災害時に緊急輸送道路が土砂災害、河川災害等により機能不全に陥る区間の分析 ・緊急輸送道路被災時の代替迂回ルートの選定 ・緊急輸送道路ネットワーク構築検討 等
観光スポットへのアクセス状況調査	・アクセス強化ルートの特定 ・スキー場アクセスの冬期対策の設計 V E ^{※1} 検討 ・融合困難箇所への待避所の適地設定 ・ヒュースポット、休憩スポットの配置設定 等	地域防災計画の避難場所・避難路の安全性調査 ・大規模災害時の2町地域防災計画における避難場所、避難路の安全性検討・迂回路想定 ・国、県、町、農、林道のネットワーク構築 ・孤立集落対策の緊急ヘリポートの確保支援 等
やまなみサイクリングロード (仮称) 構想調査	・候補地の選定 (北広島町八幡エリア 等) ・ルートの選定 (起・終点、基地 等) ・ F S 調査 ^{※2} 等	地域版 B C P ^{※3} 策定への展開調査 ・当支所が大規模災害時に孤立した際の対策検討 ・大規模災害時の地域版 B C P 策定の必要性検討 ・当支所と 2 町役場との大規模災害時訓練 等

※1 設計 V E : (バリュー・エンジニアリング) 現設計に対して機能とコストの観点から改善提案を行い、価値の向上を図る方法。
 ※2 F S 調査 : (フィジビリティ・スタディ) 実現可能性を探るための調査。
 ※3 B C P : (ビジネス・コンティニューティ・プラン) 緊急事態に備えるための事業継続計画。

観光支援 (調査①)		防災支援 (調査②)	
観光サイン計画基本調査	・管内サイン現況調査 ・北広島町観光サイン基本計画との調整 ・陰陽神楽ロード構想との調整 等 連携先 (管内 2 町 + 安芸高田市、西部建設事務所 等)	緊急輸送道路の機能分析調査	・大規模災害時に緊急輸送道路が土砂災害、河川災害等により機能不全に陥る区間の分析 ・緊急輸送道路被災時の代替迂回ルートの選定 ・緊急輸送道路ネットワーク構築検討 等
観光スポットへのアクセス状況調査	・アクセス強化ルートの特定 ・スキー場アクセスの冬期対策の設計 V E ^{※1} 検討 ・融合困難箇所への待避所の適地設定 ・ヒュースポット、休憩スポットの配置設定 等	地域防災計画の避難場所・避難路の安全性調査	・大規模災害時の2町地域防災計画における避難場所、避難路の安全性検討・迂回路想定 ・国、県、町、農、林道のネットワーク構築 ・孤立集落対策の緊急ヘリポートの確保支援 等
やまなみサイクリングロード (仮称) 構想調査	・候補地の選定 (北広島町八幡エリア 等) ・ルートの選定 (起・終点、基地 等) ・ F S 調査 ^{※2} 等	地域版 B C P ^{※3} 策定への展開調査	・当支所が大規模災害時に孤立した際の対策検討 ・大規模災害時の地域版 B C P 策定の必要性検討 ・当支所と 2 町役場との大規模災害時訓練 等

※1 設計 V E : (バリュー・エンジニアリング) 現設計に対して機能とコストの観点から改善提案を行い、価値の向上を図る方法。
 ※2 F S 調査 : (フィジビリティ・スタディ) 実現可能性を探るための調査。
 ※3 B C P : (ビジネス・コンティニューティ・プラン) 緊急事態に備えるための事業継続計画。

図)広島県 社会資本未来プランと現場主義実践プロジェクト調査

1-2. 計画策定に向けてのワーキング会議の開催

本計画策定に向けて、北広島町役場各課、北広島町観光協会、北広島町商工会、専門家からなる、北広島町サイン整備実施計画作成ワーキング会議を立ち上げ、昨年度制作した「北広島町サイン整備実施計画検討業務 報告書」をベースに、5回にかけて検討協議を行った。下図はワーキング会議の進行に関する計画資料である。また、本計画における全編がワーキング会議を経て精査・再編した結果をまとめたものである。(議事録等は参考資料として添付)

■参加者

- ・北広島町観光協会
- ・北広島町商工会・北広島町役場 企画課
- ・北広島町役場 商工観光課
- ・北広島町役場 建設課
- ・北広島町役場 教育委員会
- ・株式会社 GK デザイン総研広島(※計画策定業務受託者)

■主な議題

- ・昨年度の報告書の内容についての協議
- ・広島県が進める計画との連携に関する協議
- ・道の駅 舞ロードに千代田に設置する総合案内サインに関する協議
- ・サイン整備重点地区に関する協議

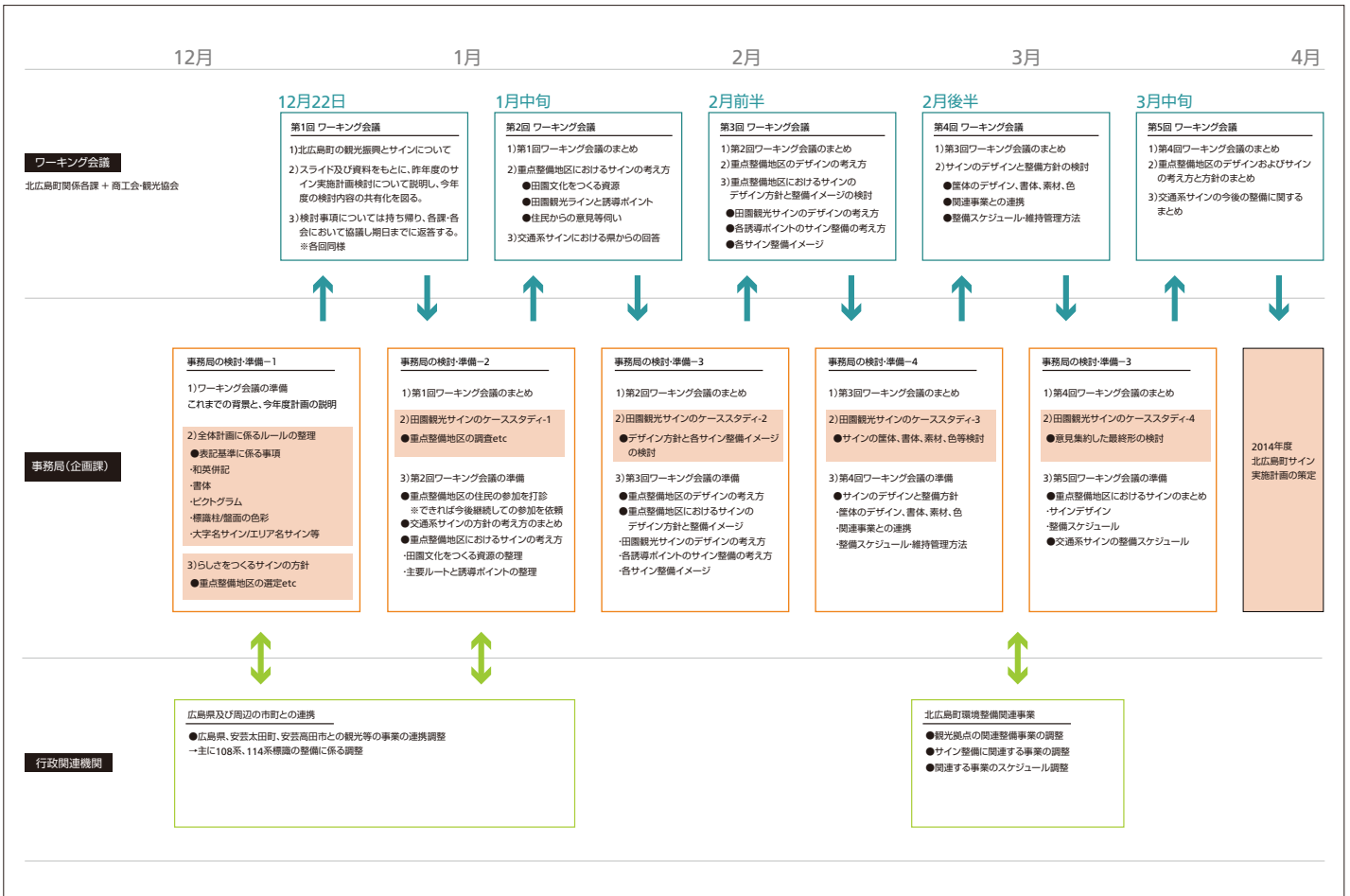


図)ワーキング会議の一連の流れ

2. 計画の目的と位置づけ

2-1. 計画の目的

■過年度策定計画の発展系として

広島県の動きとの整合性を取るために、過年度策定計画では次の段階としていたいわゆる道路案内標識を中心とする、国や県が主体となって整備している公共サイン等にも目を向けることとした。

北広島町内の既存の公共サイン(道路案内標識に加え、公共主体で設置されている屋外サイン)には、旧町名が依然として道路案内標識や様々な媒体においても使われ続けている現状がある。また、旧町合併時のままの表記やサインによって呼び方の違う名称、観光施設・景観資源に向けての案内が老朽化したサインだけ、という状況も垣間見え、公共サインが来訪者に向けて、地域の正確かつ統一性が保たれた情報を的確に伝え、目的地に円滑に誘導するための更なる工夫や指針づくりが求められている。

■目的

本計画は、北広島町サイン計画の具体化と発展を推進するものであり、さらには広島県の施策ともリンクさせることを前提として、諸計画のベースとなる指針づくりを担う計画である。さらには町内で活発な動きを見せる地域づくりの活動や既存の様々な計画(公・民)との連携を取りながら、本計画の策定・運用により、わかりやすい町内の観光案内誘導の実現とともに、「北広島町らしさ」を紐解き、将来の社会資本となる美しいさとやま景観、田園風景の醸成を目指すものとする。

2.2. 計画の位置づけ

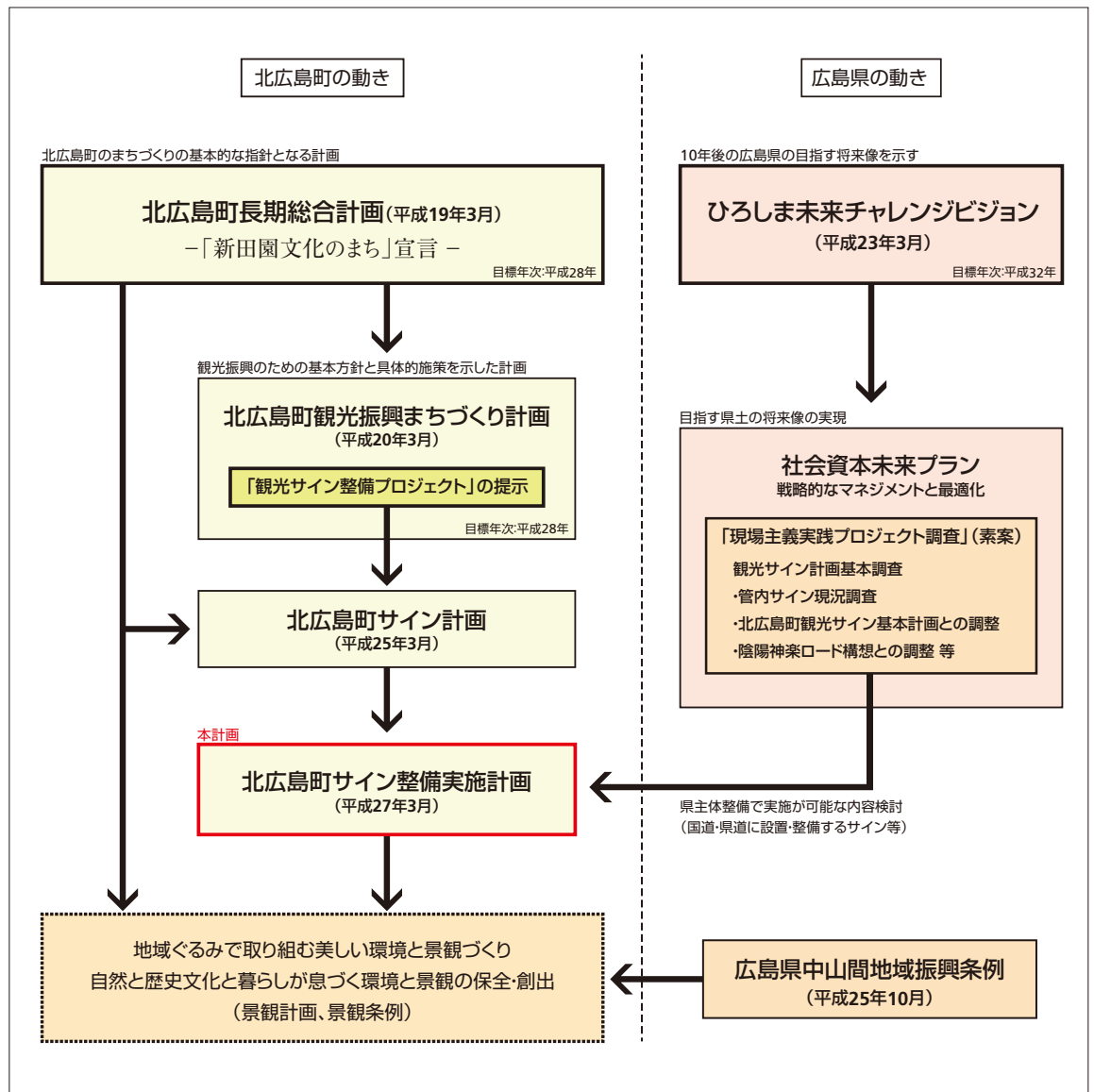


図)本計画の位置づけと諸計画の関係